

学習塾・予備校・私立学校こそ、外国出身の小学生・中学生・高校生への日本語教育と進学指導を  
－外国人材が大活躍できる地域づくりのために－

開倫塾

塾長 林明夫

Q：技能実習制度が廃止され、「育成就労制度」「特定技能制度」がスタートするようですね。

A：(1)本来は、開発途上国の人材育成と日本の技術移転による開発途上国の発展が目的の「技能実習制度」でしたが、労働力不足を補うために低賃金の外国人材が用いられ、問題が多かったため、技能実習制度は廃止されます。

(2)それに代わって、人口減少で、超人手不足を補うと同時に、外国出身で日本での就労を希望する皆様のキャリア支援や、家族帯同、期間無限定、転職自由な新しい制度が誕生します。

(3)それが、「育成就労制度」と「特定技能制度」です。

Q：「特定技能1号」の上の資格、特に、「特定技能2号」とは何ですか。

A：(1)「特定技能2号」は、「家族帯同」、つまり、配偶者や子どもを呼び寄せることができます。

(2)「滞在期間無限定」、つまり、将来の永住資格申請も可能です。

(3)また、当分は一定の期間を経た後ですが、「転職自由」となります。

○これは、日本の外国人就労にとって画期的な改革、大改革です。「移民制度」ともいうべき大改革です。

Q：ところで、「特定技能2号」を取得するための日本語習得の条件は何ですか。

A：(1)日本語能力試験3級(N3)合格です。

(2)CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)でいうと「B1」、日本語能力試験3級(N3)が条件です。

Q：この改革の中で、学習塾・予備校・私立学校ができることは何かありますか。

A：(1)政府は、外国人労働者の在留資格「特定技能」の受け入れ計画について、2024年度から5年間の上限を80万人超に設定する方針です。

(2)そのうちの多くの皆様が「特定技能2号」を取得、家族帯同が増え続けます。

(3)ですから、ご家族のうち、配偶者と、小学生・中学生・高校生への日本語教育と、小中高生への補習・進学指導の担い手として、学習塾・予備校・私立学校が最適だと確信します。

Q：在留資格が「育成就労」や、「特定技能1号」の皆様への日本語教育もできるのではないですか。

A：(1)その通りです。

(2)夜間や、企業・団体のお休みの日に、各学習塾・予備校・私立学校で、「日本語能力試験 N5・N4・N3 合格講座」を開設する。

(3)外国人材が就労する企業や団体での日本語講座に先生方が出向き、日本語指導することをおすすめします。

Q：だれでも日本語の指導はできるのですか。

A：(1)「第二言語としての日本語」を指導するのであれば、「認定日本語教師」の資格取得を目指す。

(2)そのために、日本語教師養成を正式に行っている大学や日本語学校の「日本語教師養成コース」を、1～2年かけて履修なさることをおすすめします。

(3)認定日本語教師資格取得後は、定期的に研鑽研修を受講。日本語指導能力をブラッシュアップ。

○日本語教師の資格を持つ先生を時間講師としてお招きするのもよいのですが、まずは、自分たちで正式な日本語教師の資格を取ることが大切と考えます。

○日本語指導の際には、海老原峰子先生の「日本語教師が知らない動詞活用の教え方」現代人文社 2015年7月7日刊が参考になります。

Q：日本語学習の需要はあるのですか。

A：(1)日本の人口推計には、すでに外国出身者の人口も含まれています。これから数十年の間に、1000万人以上の外国出身の皆様がおいでになります。

(2)日本国内だけでも、日本語学習の需要は100万人単位であると考えます。皆様の学習塾・予備校・私立学校のある地域の日本語学習センターとして、大活躍の余地は十分あると確信します。人口減少が激しい地域ほど、外国から移り住み、地元の皆様とともに働き、学び、暮らす方々への、レベルの高い日本語教育は欠かせません。

(3)出生数激減による児童生徒の減少分を、日本語学習者で補うことも、重要な生き残り戦略と確信します。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えすることはありますか。

A：(1)人口減少の中、人手不足で悩み抜いている地域のために、学習塾・予備校・私立学校ができることは、日本語教室をスタート。

(2)外国出身者が大活躍できる地域を作り出すべく、ご一緒にがんばりましょう。

(3)〈ご案内〉学習塾・予備校・私立学校を経営なさってる先生方の中で、「日本語学校」「日本語教育」にご関心のある先生は、「日本語学校経営品質研究会」にご参加ください。JR 東京駅・丸の内北口付近で開催。

○開倫塾・林明夫までお問合せを。(0284-72-5945・開倫塾)

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も僭越ではありますが、先生方がお読みになれば参考になると考える本を、ご紹介させていただきます。

(1)一冊目は、荒俣宏著「福翁夢中伝(上)(下)」早川書房、2023年12月10日刊。福沢諭吉著「福翁自伝」を読み直しながら本書を読むと、福沢先生が生き抜いた時代が3次元で迫ってきます。面白いこと限りなし。「福翁自伝」だけでなく、「西洋事情」「文明論の概略」「学問のすすめ」など、福沢先生のご著書を、もう一度、じっくり読み直す、素晴らしいきっかけとなる作品です。

(2)二冊目は、今月のシェイクスピアで、シェイクスピア全集 12・松岡和子訳「タイタス・アンドロニカス」ちくま文庫、筑摩書房 2004年1月7日刊です。

○訳文をワン・パラグラフずつ読み、続いて、その原文と注釈を、大修館シェイクスピア双書第2集、清水徹郎・編注、大修館書店、2022年12月20日刊で読むと、大学の文学部でシェイクスピアの講義を聞いているような錯覚に陥ります。

○「大修館書店のシェイクスピア双書(全12巻)と、第2集(全8巻)を読みながら、1年に何冊かでも、松岡和子先生(ちくま文庫)や、福田恒存先生(新潮文庫)、中野好夫先生(岩波文庫)の日本語訳で、シェイクスピアに親しむといいよ」と、小中高校の同級生で、シェイクスピアが大好きな小笠原敬三君に数年前に教わり、挑戦中。

○18世紀のイギリス文学を研究のため、夏目漱石が2年間のイギリス留学中に、シェイクスピア研究の第一人者の先生に個別指導を頼み、作品を読み、時間を作っては劇場、博物館・美術館を訪問。シェイクスピアに没頭し理解を深めた理由が、最近よくわかります。

○是非、一度、大修館書店のシェイクスピア双書第1集(12作品)、第2集(8作品)を片手に、じっくり作品をお読みください。

2024年3月11日記